

第1章 平成12年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・白石構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代の遺物が出土する小串構内など、周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺での既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合いなどを勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の方法によって調査を実施している。

平成12年度は事前調査1件、試掘調査2件、立会調査12件の計15件の調査を実施した。

Tab.1 平成12年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m ²)	調査期間	調査担当	挿図番号
事前	総合研究棟新営	吉田	Q・R-18	807	5月23日～7月31日	田畑	Fig.41 No.225
試掘	総合研究棟新営	吉田	Q-18, R-17～19	270	4月17日～5月19日	田畑	Fig.41 No.224
	福利厚生棟新営	常盤		38.5	2月26日～3月8日	村田	Fig.43 No.19
立会	厩舎及び周辺施設改修	吉田	M-8	3.6	4月24日	村田	Fig.41 No.226
	架空電線取り外し埋設	吉田	O-15, P-15・16, Q-14・15・18・19 R-13・14, R・S-19 S-14	268	5月8・22・23・25・26・30日、6月1・2・5・7・8・14・15日	村田	Fig.41 No.227
	九田川河川局部改修	吉田	H-11・12, I-10・11, J-9・10, K・L-9	616	5月11・8月3・4・18・23・25・9月4・18・10月23・11月30・12月12・1月12・2月5・3月27日	村田 田畑	Fig.41 No.228
	山口合同ガスガバナールーム新設及びガス管改修	吉田	O-19～22, P-18・19・22	313	8月2・3・22・23・28・29日	村田	Fig.41 No.229
	総合研究棟新営（仮設電柱設置）	吉田	R-19, S-20	1	8月17日	田畑	Fig.41 No.225
	バリカー新設	吉田	N-22, V-17	0.4	12月22日	村田	Fig.41 No.230
	あずまや新設	吉田	L-18	5	3月2・5日	村田 田畑	Fig.41 No.231
	共通教育センター空調設備新設	吉田	J-16	1.4	3月13日	村田	Fig.41 No.232
	基幹環境整備（外灯新設）	吉田	J・K-21, M-10	2	3月27・28日	村田	Fig.41 No.233
	教育学部附属山口中学校防球ネット新設	白石		4.4	12月6日	村田	Fig.45 No.18
	教育学部附属光小・中学校護岸石積改修	光		173	7月4日	村田	Fig.46 No.20
	教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修2期	光		23	8月10日	田畑	Fig.46 No.21

吉田構内の調査（本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市大字吉田 1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田 3003 所在）

事前調査 1 件、試掘調査 1 件、立会調査 9 件を実施した。

総合研究棟新営に伴い、試掘調査を経て事前調査を実施した。調査の結果、調査区は埋没谷の中に位置することが判明した。弥生時代以降の遺構面形成層も縄文～弥生時代の谷の堆積土と考えられる。調査区では縄文～弥生時代谷埋土 1 から縄文土器（後～晩期の深



Fig.1 山口大学吉田・白石構内位置図

鉢)、弥生土器（中期末～後期初頭の壺・甕）、石鏃、石斧が出土した。また、谷埋土 2 からは古代の土師器、須恵器、谷埋土 1 からは古代の土師器、須恵器、中世の瓦質土器が出土した。谷は弥生時代中期末～後期初頭以降に堆積が進行し、古代を経て中世（15～16世紀）には堆積が完了したとみられる。確実な遺構は近世以降の棚田に伴うもので、土壌の多くは自然の落ち込みであった可能性がある。

古代の遺物のうち、須恵器には円面硯や墨書を持つものなど、官衙の存在を推測させる遺物も含まれていた。なお、立会調査でも A・B 地点で谷埋土を確認した。

上記調査区を含めた現動物医療センター周辺は近年の調査で官衙を想起させる遺構・遺物の検出が相次いでおり、詳細は『山口大学埋蔵文化財資料館年報』を参照されたい。

架空電線取り外し埋設工事に伴う立会調査では、家畜病院西側において現地表下 50 cm 前後で遺物包含層を検出し、土

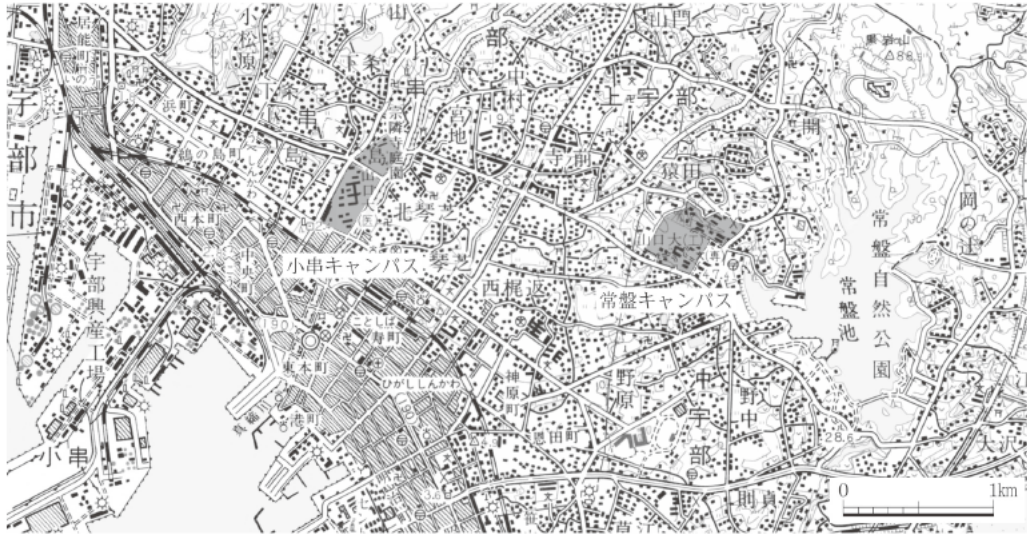


Fig.2 山口大学小串・常盤構内位置図

師器、須恵器片が少量出土した。遺物包含層は、ほぼ上面検出にとどまったため、詳細は不明であるが、総合研究棟敷地・解剖実習棟敷地・農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期第2調査区で検出した谷の延長部分と考えられる。

基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査では、B地点で包含層を検出し、出土層位不明であるが、土師器片が出土した。B地点の北側に位置する東アジア研究科・経済学研究科棟敷地では、自然河川、自然流路、溝が検出されていることから、B地点の包含層はこれらのいずれかの延長部分である可能性が高い。

その他の立会調査では、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

白石構内の調査（教育学部附属山口幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同小学校：白石三丁目1-1、同山口中学校：白石一丁目9-1所在）

立会調査1件を実施した。教育学部附属山口中学校防球ネット新設工事に伴う立会調査は、調査範囲が狭小であったことから、断面の確認は困難であった。また、埋土に遺物は含まれていなかった。

小串構内の調査（医学部、同附属病院、医療技術短期大学部：宇部市南小串1丁目1-1）

当該地で掘削を伴う開発等工事は計画されなかった。

常盤構内の調査（工学部：宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舍：同上野中所在）

試掘調査1件を実施した。福利厚生棟新営に伴う試掘調査では、削平が著しく、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

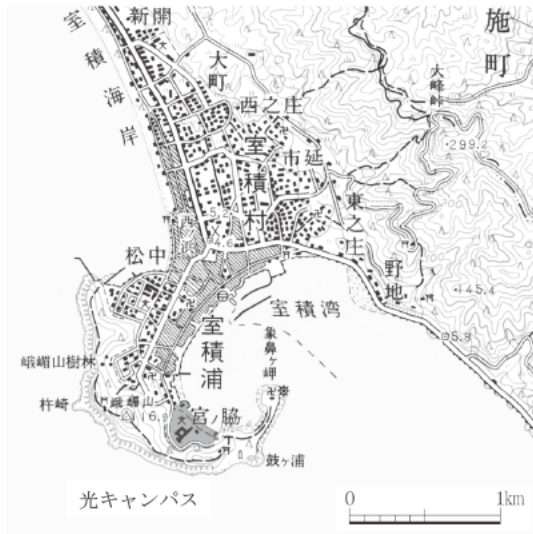


Fig.3 山口大学光構内位置図

立会調査 2 件を実施した。教育学部附属光小・中学校護岸石積改修工事に伴う立会調査で B・C 地点の一部で既設の石垣の内側に円礫を使用した石積が確認された。この石垣の詳細な時期は不明であるが、石垣の裏込土等からは近世～近代の磁器、蛸壺、瓦片が出土した。蛸壺には墨書が認められ、大部分は判読できなかったが、底面に「宮」が書かれていた。

教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修 2 期工事に伴う立会調査では、A-1 地点（学生研修宿泊棟から南西約 1.7 m）の現地表下 103 ～ 165 cm で近世～近代の灰白色粗砂を検出し、同層から土師器片、須恵器片、越州窯青磁碗片、石錘が出土した。

光構内の調査（教育学部附属光小学校、同光

中学校：光市大字室積浦 1-1 所在）

立会調査 2 件を実施した。教育学部附属光小・中学校護岸石積改修工事に伴う立会調査で B・C 地点の一部で既設の石垣の内側に円礫を使用した石積が確認された。この石垣の詳細な時期は不明であるが、石垣の裏込土等からは近世～近代の磁器、蛸壺、瓦片が出土した。蛸壺には墨書が認められ、大部分は判読できなかったが、底面に「宮」が書かれていた。

教育学部附属光小・中学校上水道（給